

ADEO Report

VCT Project in Kenya



Head Office

P.O. BOX 50144 Nairobi, KENYA
Tel: +254-20-575561
E-mail: adeo@wananchi.com

Tokyo Liaison Office

2-23-14 Higashi Kunitachi
Tokyo, JAPAN 186-0002
Fax: 042-573-2507
E-mail: adeojapan@yahoo.co.jp

謝辞

昨年(2003年)はADEOポロシャツを購入していただきありがとうございました。おかげさまで19名の方に買っていただき、収益金3万8千円を集めることができました。この場をお借りしてその後どのような形で収益金が使われたのか、報告させていただきます。

ご購入された際に伝えさせていただいた通り、収益金は「VCTプロジェクト」のために使わせていただきました。このレポートではVCTとは何かということを含め、HIV/AIDS対策全般についても言及しております。現在、HIV/AIDSはアフリカ地域だけに限らず、全世界で人類に対する脅威として猛威を奮っています。日本も例外ではありません。若者の間での感染拡大についての報告もご存知の通り年々増加している傾向があります。このレポートがみなさんにとって、HIV/AIDS問題を考えるいい契機となればと思っております。



2003年に販売させていただいたアデオポロシャツ
アデオのディレクターDr.Wesongaと共に日本へやってきた



アデオとは

アデオ(ADEO)はアフリカ地域において、医療・教育分野を中心に活動する非政府組織(NGO)です。

ケニアの首都ナイロビに本部を置き、現在ケニア・ウガンダ・シエラレオネ・スーダンの4カ国でプログラムを展開しており、タンザニア、リベリアにもプログラムを拡大する予定です。

ウガンダで診療所を中心にHIV/AIDS対策を含めたヘルスサービス、そして教育プログラムを、ケニアではHIV/AIDS予防啓発プログラムを、シエラレオネでは教育プログラムをそれぞれ実施しています。



ケニアにおけるエイズでの現状



エイズで両親を失った子供たちはとりあえず
孤児院に引き取られる（ブシア市街にある孤児院）

80年代初めに、発見されたHIV/AIDSという人類がこれまでに経験したことのない新種の感染症は現在に至るまで、急速に全世界へと拡大していきました。現在、全世界で約4000万の人々がHIVウィルスに感染、もしくはAIDSを発症しています。年間約500万人が新たに感染し、約350万人が亡くなっています。特に途上国に顕著で、サハラ以南のアフリカ地域には全世界の感染者のうちの約70%が集中していると言われています。

東アフリカの大国ケニアにおいても、20余年の間に感染が爆発的に拡大していき、現在では成人人口の約10%がHIVに感染しているとの報告が出ています。2000年にはケニア政府が、HIV/AIDSを“National Disaster（国家の危機）”として位置づけ、政府戦略の最重要課題として打ち

出しました。その後、国家的な取り組み／整備が進められていますが、対策としてはまだまだ不十分と言わざるを得ない状況にあります。

ケニア西部に位置するブシアBusia県はケニアの中でも特にHIV/AIDSの打撃を受けている地域であり、成人HIV感染率は約30%にまでのぼっています。また同時に、国内で4番目に貧しい地域でもあり、HIV/AIDSと貧困が相互に絡み合い地域社会に甚大な悪影響を及ぼしています。農村部では特にHIV/AIDSに対する根強い差別や偏見がまだまだ根強く残り、HIV/AIDSによって親を失ったエイズ孤児（遺児）へのサポートなどを含めて、社会全体による包括的なHIV/AIDS対策が必要とされています。



父親をエイズで亡くした母子
母もまたHIVに感染している

アデオの活動 in ブシア県ナンバレ

アデオは現在、このブシア県において、HIV/AIDS対策プロジェクトを展開しています。

ブシア県は、Busia Township、Funyula、Matayos、Budalangi、Butula、Nambaleの6つの地区から構成される広大な地域です（1262km²）。そのうちの一つ、ナンバレNambale地区において、アデオは若者を対象にした予防啓発プロジェクトを行っています。思春期を挟んだ15歳から30歳の年代に属する若者たちは、性的に最も活動的である一方で、性に対する強い関心にも関わらず正確な情報を持っていません。そのため彼らはHIV感染に対し非常にリスク高い状況の中に置かれています。このような問題意識から、アデオは若者をターゲットに「ピア教育（Peer Education）」という手法を用いて予防啓発の促進、それに伴う差別・偏見の軽減につとめています。



アデオのピア・エジュケーター
バッグはコンドーム配布用

ピア教育はHIV/AIDSに関する情報伝達の上で、最も効率的な手法の一つと言われています。ピア教育とは訓練を受けてHIV/AIDSへの正確な情報・予防法をもった若者が、彼らと同年代の友達グループ（peer group）へその情報を伝えます。それと同時にコンドームを配布することなどを通じて、より多くの若者がHIV感染から自分を守るように行動変容を起こすように働きかけます。その結果社会におけるHIV感染者やエイズ患者に対する偏見や差別を軽減していくことを目的としたプロジェクトです。アデオはこれまでにナンバレ地区の若者123人に対して訓練を実施し、彼らを通じ約6000人の若者へ情報を伝達してきました。



ビデオ教材を使った小学校でのピア教育



ピア教育では演劇や歌など様々な手法を通じて人々のエイズへの理解の向上を目指す



Voluntary Counseling and Testing (VCT)の重要性

ピア教育を通じて、アデオは若者にHIV/AIDSについての正確な知識の獲得と感染を予防するための行動変容を起こすことを目指していますが、知識の獲得がそのまま行動変容に結びつくかというそうではありません。わかってはいるけれど、というのが人間の心理というものです。

そこで頭での理解から行動変容に至るまでのギャップを埋めることが非常に重要になります。この点で最も効果的な手法と言われているのがVCT=Voluntary Counseling and Testing(自発的カウンセリング・HIV検査)と言われる自発的なHIV検査と検査前後のカウンセリングをセットにした一連のプロセスです。まず自分のHIVステータスを知ること、それが行動変容すなわち自主的な感染予防の第一歩となるのです。このVCTサービスは、病院や独立したVCTセンターにて無料で受けることができます。



VCTはまず検査前のカウンセリングから始まります。ここでHIV検査についての説明を受けて意思確認がなされた後、採血され簡易テストが行われます。5~15分ほどで結果がわかり、それに基づいて検査後のカウンセリングを受けます。この時、陰性となった人に対しては今後いかにしてHIVに感染しないまま陰性でいられるかという趣旨で予防法についての説明がなされます。また陽性という結果を受けた人に対しては、HIV/AIDSとともにどう生きていくか、そして感染を拡大しないためにどうすべきかカウンセラーより説明があります。ここでは地域の感染者グループや感染症の治療施設などが紹介されるためにHIV感染者に対するサポートの出発点としても非常に重要です。こうして、VCTを通じてHIV/AIDSと向き合う行動を起こすように働きかけます。

アデオが活動するナンバレ地区でも、2003年末より公立のヘルスセンターにおいてVCTサービスが開始されました。今回ポロシャツ販売からの収益金はこのVCTサービスの普及のため、以下の2つの活動に使わせていただきました。

1. Tシャツ・フライヤーを通じたVCT啓発活動

まず世界エイズ・デーとして定められた12月1日に合わせ、アデオは収益金の一部を使い50枚のTシャツをフライヤー100枚と合わせて製作いたしました。当日ブシアのサッカースタジアムで催されたイベントではアデオのピアエジュケーターたち50人がTシャツを身にまとい、集まった人々への啓発運動を展開しました。Tシャツの背面にある“I chose to know my status. What’s your choice (私は自分の(HIV)ステータスを知ることになりました、あなたはどうする?)”というメッセージとともに人々のVCTへの理解の促進につとめました。



50人のピアエジュケーターがワールド・エイズ・デーのイベントに参加した



Tシャツの背面にメッセージがより多くの人の目にふれることがVCTサービスの普及につながる

VCT(Voluntary Counseling and Testing)は文字通り、個人の決断に基づいた自発的なものでなければなりません。自ら考え、その意味を知ることがその先の行動変容へとつながっていくのです。VCTがエイズ対策として有効に機能するためには、その下地として地域の人々が十分にその意味を理解することが必要不可欠なのです。

2. VCT自転車の購入・活用

次にアデオはナンバレ地区内の各地域からVCTセンターへ希望者を連れていけるように、自転車を6台購入させていただきました。

ナンバレ地区は東京都の約三分の一の広さで(234.5km²)、Bukhayo North、Bukhayo Central、Bukhayo East、Walatsi、Nambale Townshipの5つの地域に分かれています。アデオはこのナンバレ地区全体でピア教育プロジェクトを展開していますが、その広さゆえに交通手段が非常に大きな問題となります。

VCTサービスはナンバレ地区では唯一公立のヘルスセンター(Nambale Township)でしか利用できませんので、遠くの地域に住む人にとっては簡単に受けられるようなものではありません。マツツという乗り合いタクシーが運行する地域も一部ありますが、大部分の地域では自転車タクシーが主な交通手段となっています。自家用自転車を持っている人も多くはありません。

いくらピア教育によってVCTサービスの重要性を理解したとしても、決して安くはない交通費を払ってまで利用しに行くということは、貧しい農村地域で暮らす人々にとってはとても難しいことです。このVCTセンターの物理的な遠さがVCTサービスの普及を妨げる大きな壁となっているのです。



購入した自転車には「ADEO」と記されている

このような問題意識から、アデオは5つの各地域に1台ずつとオフィスに1台、計6台の自転車を収益金を使い購入しピア教育に従事するユースグループに提供しました。ピアエジュケーターはピア教育を進める中で、VCTサービスを希望する若者を募ります。その希望者を彼らがアデオの提供した自転車の荷台に乗せてVCTセンターまで連れて行く。これがこ



緊張した面持ちでVCTセンターへと向かう
Camil Owori と Carolyne Akotu

Bukhayo Central のピアエジュケーターCamil Oworiの運転する自転車の後部座席に乗って現れたのはKarolyne Akotu (20)。彼女が自らのHIVステータスを知るためにアデオのVCT自転車を利用した最初の人でした。

Bukhayo Central 地域に住む彼女は、近所で催されていたピア教育に参加しVCTを受けることを決意しました。VCTは秘密厳守が原則ですので、我々には彼女の検査結果はわかりません。しかし重要なのはHIV検査の結果ではなく、彼女が自らのステータスを知ることで、自分の行動に変化を起こすことができるということです。VCTを受けた後、彼女はピアエジュケーターの一員として活動していくことを決意しました。

このように意識喚起から行動変容へと導いていくことは、HIV/AIDS対策の理想的な形です。日本から来たお金が生んだ小さな変化が、ケニアの辺境に位置するナンバレ地区に今大きな影響を与えようとしています。ありがとうございました。(文責:小栗充博)



公立ヘルスセンターへ到着。奥に見えるのがナンバレ公立診療所にあるVCTセンター



VCTを受けた後、彼女はピアエジュケーターとして活動することを決意した

<会計報告>

品名	単価(円)	数量	収入(円)	支出(円)
アデオポロシャツ	2,000	19	38,000	
収入合計			38,000	
VCT 啓発Tシャツ	305	50		15,250
VCT 自転車	3,780	6		22,680
支出合計				37,930

※100円=74Ksh (ケニア・シリング) として計算